

市立豊中病院の がんの手術

2026



- 手術技能に関する有資格者一覧
- 実施しているがんの手術とその実績
- がんの手術に関連した当院の取り組み

ごあいさつ

昨年度に引き続き、地域の医療機関の先生方や患者の皆さんに、益々充実してまいりました当院のがん手術への取り組みをお伝えしたく、今年度版として内容を改訂・更新いたしました。

近年、がんの手術はますます高度化・専門化が進んでいます。当院では、各領域の資格を有する専門医が連携し、腹腔鏡手術やロボット支援手術をはじめとする低侵襲な手術の提供に努めております。また、昨年度の途中からがんの手術を含む全身麻酔手術を土曜日にも行うようになりました。さらに、今年度の7月には手術室が1室増設され、9室から10室になる予定ですので、これまで以上にがんの手術に迅速に対応できるようになると思います。地域の医療機関の先生方には、がんの手術が必要な患者さんがいらっしゃいましたら、当院へご紹介いただけますと幸いです。

また、患者の皆さんも、住み慣れた地域の中で低侵襲ながん手術が受けられる当院を、選択肢のひとつとしてご検討いただければと存じます。

市立豊中病院 副院長／がん診療部長／消化器外科主任部長 **今村 博司**



当院のがん診療の特徴

市立豊中病院では、住み慣れた地域の中で、高度ながん診療を受けることができます。

○「国指定 地域がん診療連携拠点病院」と「がんゲノム医療連携病院」に指定されています

地域のがん診療の中心的役割を担う病院として、人員、設備、取り組み、実績など国が定める厳しい指定要件を満たしています。また、「がんゲノム医療」を保険診療で受けることができます。

○様々ながんの手術に精通した医師が多数在籍しています

大阪大学の医局から派遣されているがんの手術技能に関する資格を持った専門医が責任をもって手術を担当します。

○診療科間連携や多職種連携を推進しています

がん以外の併存疾患を持っておられても、31の診療科と緊密に連携した診療が可能です。また、医師、看護師、薬剤師はじめ、多くの専門職種が連携して、がんの手術患者さんを支えています。

○医療・介護・公共との連携が強みです

がんの手術を受けられたあとも、必要な医療を切れ目なく提供するために、地域の診療所や介護との連携も推進しています。また、豊中市の市立病院である強みを生かし、必要に応じて豊中市の関係機関と「医療と公共」の連携を行い、自分らしい生活を送るための支援をしています。

YouTubeで当院のがん診療の特徴を紹介しています \



CONTENTS

手術技能に関する有資格者一覧

・ 外科系学会による技術認定制度 ～鏡視下手術の有資格者～	P.1
・ 外科系学会による技術認定制度 ～ロボット支援手術の有資格者～ 手術支援ロボット ダヴィンチサージカルシステム認定資格者	P.2
・ がん手術実績一覧 (2025 年度)	P.3

市立豊中病院で実施しているがんの手術とその実績

1. 胃がん 2. 食道がん	P.4
3. 大腸がん	P.6
4. 肝がん 5. 胆のうがん 6. 胆管がん	P.7
7. 膵臓がん	P.8
8. 乳がん	P.9
9. 肺がん	P.11
10. 腎がん 11. 腎盂がん・尿管がん	P.12
12. 膀胱がん・尿道がん 13. 前立腺がん	P.13
14. 精巣がん・男性生殖器がん	P.14
コラム：前立腺がん治療の新時代	P.15
15. 皮膚がん	P.16
16. 子宮頸がん 17. 子宮体がん	P.17
18. 卵巣がん	P.18
19. 甲状腺がん 20. 頭頸部がん	P.19
21. 脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）	P.20
22. 口腔がん	P.21
コラム：ロボット支援手術のメリット	P.22

がんの手術に関連した当院の取り組み

● 手術前の準備を多職種でサポートします ～患者サポートセンター～	P.23
● かかりつけ歯科と連携し合併症を予防します ～周術期口腔機能管理～	P.24
● 安全かつ快適な周術期（手術前から手術後まで）のために ～麻酔科・術後疼痛管理チーム～	P.24
● 術後の体力低下を予防します ～栄養療法とがんリハビリテーション～	P.25
● 様々な術後感染症を予防します ～感染対策室～	P.25
● がんに伴うあらゆる苦痛をやわらげます～緩和ケアセンター（緩和ケアチーム）～	P.26
● 地域の医療機関と連携し、治療前から治療後まで支えます ～地域医療連携室～	P.26
● がん薬物療法で「がんが治る」ことをめざします ～がん薬物療法センター～	P.27
● 放射線治療という選択肢 ～放射線治療科～	P.27
● 身体への負担を少なく ～内視鏡部～	P.28
● がん切除後の再建と機能改善を支えます ～形成外科～	P.28
● その他 がんに関するよろず相談 ～がん相談支援センター～	P.29

手術技能に関する有資格者 一覧

がんの手術には、高度で専門的な手術技能が求められます。外科系の学会やロボット支援手術では、確かな手術技能を有する外科系医師に与えられる手術手技認定制度というものがあります。

当院には鏡視下手術やロボット支援手術などにおいて多数の技術指導医・認定医の資格を有する外科系医師が在籍し、信頼性の高いがんの手術を行っていますので、安心してがんの手術を受けることができます。

外科系学会による技術認定制度 ～鏡視下手術の有資格者～

鏡視下手術
有資格者

鏡視下手術の技術認定制度は、手術動画による実技審査などを通じて、実際の手術手技を評価する制度です。十分な経験と高い技術を有する外科医のみが合格、認定される難関資格です。

科	氏 名	認定資格
消化器外科	部長 清 水 潤 三	日本肝胆膵外科学会高度技能指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器、一般外科：胆のう)
	部長 鈴 木 陽 三	日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器、一般外科：大腸)
	医長 新 野 直 樹	日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器、一般外科：胃)
	医長 岩 本 和 哉	日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器、一般外科：大腸)
	医長 中 島 慎 介	日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
泌 尿 器 科	部長 佐 藤 元 孝	日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会腹腔鏡技術認定医 日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医(泌尿器科)
産 婦 人 科	主任部長 辻 江 智 子	日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医
	嘱託 脇 本 昭 憲	日本産婦人科内視鏡学会技術認定医
脳神経外科	主任部長 西 尾 雅 実	日本神経内視鏡学会技術認定医
	部長 森 康 輔	日本神経内視鏡学会技術認定医
	医員 福 田 竜 丸	日本神経内視鏡学会技術認定医

外科系学会による技術認定制度 ～ロボット支援手術の有資格者～

ロボット支援
有資格者

ロボット支援手術に関する学会認定資格は、鏡視下手術に関する技術認定資格を有していることなどを前提に、専門的な知識や手術経験に加え、他の医師への指導的役割を担う技術者を評価するものです。当院では、学会認定を受けた医師が在籍し、安全で質の高いロボット支援手術の提供に努めています。

科	氏 名	認定資格
消化器外科	部長 清 水 潤 三	日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター (脾切除)
	部長 鈴 木 陽 三	日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター (消化器・一般外科:大腸) 日本ロボット外科学会 Robo Doc Pilot 国内B級
	医長 新 野 直 樹	日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター (消化器・一般外科:胃)
	医長 岩 本 和 哉	日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター (消化器・一般外科:大腸、ヘルニア)
泌 尿 器 科	部長 佐 藤 元 孝	日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 ロボット支援手術プロクター (腎・副腎、膀胱・前立腺)

手術支援ロボット ダヴィンチサージカルシステム認定資格者

ロボット支援手術では、使用する機種ごとに認定が必要であり、メーカーが定める研修・訓練を修了し、認定資格を取得した医師が術者や助手を担当します。当院ではダヴィンチによるロボット支援手術において、所定の研修を修了した医師がロボット支援手術に携わっています。

術者					
消化器外科	清 水 潤 三	鈴 木 陽 三	新 野 直 樹	岩 本 和 哉	松 下 克 則
	大 里 祐 樹				
泌 尿 器 科	佐 藤 元 孝	石 津 谷 祐	梅 田 駿	桧垣朱友子	町 谷 成 梧
	瀬 川 晃 平				
助手					
消化器外科	今 村 博 司	川 瀬 朋 乃	大 里 祐 樹		
泌 尿 器 科	佐 藤 元 孝	石 津 谷 祐			

がん手術実績 一覧 (2025 年度)

がん種	全件数	うち内視鏡手術 (胸腔鏡・腹腔鏡・泌尿器内視鏡)	うちロボット 支援手術
胃がん	56	27	28
食道がん	3	3	—
大腸がん（結腸・直腸）	176	90	48
肝がん	28	11	0
胆のうがん	9	4	
胆管がん	4	0	
膵臓がん	15	0	1
乳がん	160 (再建 25)	—	
肺がん	44	40	—
腎がん	39	7	32
腎盂がん・尿管がん	19	4	15
膀胱がん・尿道がん	207	199	8
前立腺がん	62	0	62
精巣がん・男性生殖器がん	6	0	0
皮膚がん	103	—	
子宮頸がん	5	—	—
子宮体がん	18	2	—
卵巣がん	20	—	
甲状腺がん	3	—	
脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）	30	—	
口腔がん	17	—	—
合 計	1,024	387	194

※「—」（バー）：当院で未導入 「0」：実施可能だが当該年度の実績なし

1. 胃がん

担当診療科：消化器外科



診療科のご案内はこちら

当院の胃がん手術の特徴

- 内視鏡外科学会の技術認定医による腹腔鏡・ロボット支援手術を得意とし、根治性に加え、低侵襲で安全な手術を行い、早期の社会生活への復帰と健康長寿を目指しています。
- 当院の胃がん治療は、日本胃がん学会認定施設 A(最高レベル)に認定されています。2026年5月現在、認定施設 A は豊能二次医療圏では大阪大学と当院のみです。

当院の胃がん手術の実績(2025年度)

- 胃がん切除術：56例 (55例(98%)が腹腔鏡下手術。そのうち、28例がロボット支援手術)

地域のみなさんへのメッセージ —胃がん—

- 低侵襲で最先端の医療を安全に提供します。また、がん薬物療法専門医、認定看護師、薬剤師、管理栄養士も常駐しており、胃がんの手術前から手術後までトータルにサポートします。

2. 食道がん

担当診療科：消化器外科



診療科のご案内はこちら

当院の食道がん手術の特徴

- 食道がん治療の選択肢は多岐にわたりますが、患者さんごとの最適な治療を検討し、内視鏡治療から、化学・放射線療法、そして手術まで、幅広くその適応を判断しています。
- 根治手術は、鏡視下での低侵襲手術を基本としています。また、全国でも有数の食道がんの治療実績がある阪大病院と密に連携できる点も、当院の強みです。

当院の食道がん手術の実績(2025年度)

- 食道がん切除術：3例 (全例が胸腔鏡・腹腔鏡による鏡視下手術)

地域のみなさんへのメッセージ —食道がん—

- 低侵襲で最先端の医療を安全に提供します。また、術前、手術、術後を通して、多職種、多診療科が介入し連携することで、周術期医療を幅広くサポートします。

手術担当医師（胃がん・食道がん）



いむら ひろし
今村 博司

副院長 兼
外科部長 兼
消化器外科主任部長 兼
がん診療部長 兼
消化器センター長 兼
臨床研究センター長



かわせ ともの
川瀬 朋乃

消化器外科部長 兼
外科部長 兼
がん薬物療法センター長 兼
がんゲノム医療センター副センター長



しんの なおき
新野 直樹

消化器外科医長 兼
外科医長

のま としき
野間 俊樹

消化器外科医長 兼 外科医長

鏡視下手術
有資格者

ロボット支援
有資格者



当院は 日本胃癌学会認定施設Aに認定されています

当院は日本胃癌学会より最高ランクの「認定施設A」の認定を受けています。「認定施設A」は全国で大学病院やがんセンターなども含め152施設、豊能二次医療圏では大阪大学と当院のみであり（2026年5月時点）、当院の胃がんに対する手術療法や診療体制が極めて高い水準であることが評価されたものです。また、地域の診療所の先生方との連携を大切にしながら、「胃がんになったら、まず当院へ」と安心して選んでいただける体制を整えています。

これからも、地域の皆さまに最先端かつ安全で信頼される胃がん手術を提供してまいりますのでよろしくお願いいたします。

3. 大腸がん

担当診療科：消化器外科



診療科のご案内はこちら

当院の大腸がん手術の特徴

- 患者さん、ご家族の方と相談の上、治療方針を決定しています。初診時から併存症（持病）に関わる他の科の医師、がん関連の認定看護師、医療ソーシャルワーカーの介入、緩和ケアチームの診療も積極的に行っています。
- 2019年にロボット支援直腸手術を開始して以来、結腸も含め累計300例を超えました。
- Lynch（リンチ）症候群などの遺伝性腫瘍の遺伝子検査・遺伝カウンセリングも行なっています。

当院の大腸がん手術の実績（2025年度）

- 結腸がん手術 110 件（78 件） （ ）はロボットを除く腹腔鏡下手術
- 直腸がん手術 66 件（12 件）
- ロボット支援結腸がん手術 5 例
- ロボット支援直腸がん手術 43 例

地域のみなさんへのメッセージ —大腸がん—

- 小さな傷の腹腔鏡手術（疾患によってはお臍の傷だけで済む単孔式手術、ロボット手術を含みます）に力をいれて取り組んでいます。また、併存症（持病）をお持ちの患者さんにも各専門領域、各医療職種との連携で対応します。

手術担当医師（大腸がん）



消化器外科部長 兼
外科部長

すずき ようぞう
鈴木 陽三

鏡視下手術
有資格者

ロボット支援
有資格者



消化器外科医長 兼
外科医長

いわもと かずや
岩本 和哉

鏡視下手術
有資格者

ロボット支援
有資格者

とみた なおひろ 富田 尚裕	がん診療部 特任顧問(外科兼任)	おおざと ゆうき 大里 祐樹	消化器外科医員 兼 外科医員
-------------------	------------------	-------------------	-------------------

4. 肝がん

担当診療科：消化器外科



診療科のご案内はこちら

当院の肝がん手術の特徴

- 肝部分切除であっても支配領域のグリソンを特定し解剖学的に正しい肝切除術を目指しているため、術後の胆汁漏はとても低率です。また、予防的ドレーン留置も胆汁漏が低率なので行っていないが、術後の経過は良好です。
- 開腹手術か腹腔鏡手術かの術式決定については肝がんの局在と大きさ、患者さんのご希望を加味して決めています。また、今年度よりロボット支援下肝部分切除術を開始しました。

当院の肝がん手術の実績（2025年度）

- 肝細胞がん 12 例（腹腔鏡 5 例）、肝内胆管がん 4 例（腹腔鏡 1 例）、
転移性肝がん 12 例（腹腔鏡 5 例）

5. 胆のうがん

担当診療科：消化器外科



診療科のご案内はこちら

当院の胆のうがん手術の特徴

- 大阪府下では DPC（診断群分類包括評価）データ上で症例数は9番目であり、多くの症例を治療しています。
- 腫瘍の進展に応じて腹腔鏡手術と開腹手術を決定しています。

当院の胆のうがんの手術の実績（2025年度）

- 胆のうがんの根治切除…9 例（腹腔鏡 4 例）

6. 胆管がん

担当診療科：消化器外科



診療科のご案内はこちら

当院の胆管がん手術の特徴

- 胆管がんは、肝切除術と膵切除術、あるいは両方を同時におこなう必要があります。また、高い診断能と安全に手術ができる技術が必要です。当科では、肝胆膵外科学会の高度技能医の有資格者が2名在籍しています。

当院の胆管がん手術の実績（2025年度）

- 胆管がん根治切除…4 例

7. 膵臓がん

担当診療科：消化器外科



診療科のご案内はこちら

当院の膵臓がん手術の特徴

- 膵臓がんは術前化学療法を行ってから手術を行います。膵頭部がんは開腹で膵頭十二指腸切除術を、膵体尾部がんは可能であればロボット支援下膵体尾部切除術を行います。
- 大阪府下では DPC データ上で症例数は7番目であり、多くの症例を治療しています。

当院の膵臓がん手術の実績（2025年度）

- 膵がん切除術 15 例（ロボット 1 例）

地域みなさんへのメッセージ ー肝がん、胆のうがん、胆管がん、膵臓がんー

- 腹部超音波検査や CT 検査で異常があればいつでも当科にご紹介ください。精査させていただきます。

手術担当医師（肝がん・胆のうがん・胆管がん・膵臓がん）



しみず じゅんぞう
清水 潤三

鏡視下手術
有資格者

ロボット支援
有資格者

医務局次長 兼
外科主任部長 兼
消化器外科部長



なかしま しんすけ
中島 慎介

鏡視下手術
有資格者

消化器外科医長 兼
外科医長

まつした かつのり
松下 克則

消化器外科医長 兼
外科医長

8. 乳がん

担当診療科：乳腺外科



診療科のご案内はこちら

／形成外科



診療科のご案内はこちら

当院の乳がん手術の特徴

(乳腺外科)

- 乳がんに対し、手術、全身薬物療法、放射線療法を複合させ、標準治療を原則として治療を行っています。
- 手術は大きく分けて乳房切除術（いわゆる全摘）と乳房部分切除術（いわゆる温存）、腋窩リンパ節に対しては、センチネルリンパ節生検あるいは腋窩リンパ節郭清術を行っています。これらの術式を病態に応じて使い分けて行っています。さらに、ご希望のある方には乳房再建術も形成外科と連携して行っています。
- また、遺伝性腫瘍は最近のがん診療のトピックスでもありますが、遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対する予防的乳房切除術にも対応しています。

(形成外科)

- 乳腺外科との合同手術で皮弁を使用した1次1期再建やティッシュエキスパンダーを使用した1次2期再建を主に行っています。また、乳がん手術後からしばらく経過して行う再建（2次再建）にも対応しています。
- 過去にシリコンインプラントで乳房再建を行った症例で破損が疑われる場合や、自家組織再建への変更にも、相談の上、手術対応を行っています。

当院の乳がん手術の実績（2025年度）

(乳腺外科)

- 乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術 腋窩郭清を伴わないもの 55 例
- 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除 腋窩部郭清を伴わない 37 例
- 乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術 腋窩鎖骨下部郭清を伴う 胸筋切除を併施しない 27 例
- 乳頭温存乳房全切除術 7 例
- 乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術 腋窩鎖骨下部郭清を伴う 胸筋切除を併施 5 例
- 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除 腋窩部郭清を伴う 1 例

(形成外科)

- 広背筋皮弁による乳房再建 4 例
- DIEP（深下腹壁動脈穿通枝）皮弁による乳房再建 4 例
- 腹直筋皮弁による乳房再建 1 例
- ティッシュエキスパンダー挿入術 9 例
- インプラント挿入術 6 例
- 乳輪乳頭再建術 1 例
- 植皮術 3 例

地域みなさんへのメッセージ —乳がん—

(乳腺外科)

- 当院は地域随一の規模をもつ総合病院である利点を活かし、最新の薬物療法を含め、ほとんどの治療が可能です。乳房に何らかの症状のある方は、お気軽にご相談ください。

(形成外科)

- 乳房再建方法として、人工物を使用する場合や自家組織を移植する場合があります、当院ではいずれも対応可能です。
- 乳がんの手術後、しばらく時間が経過していても乳房再建は可能です。手術について少しでも考えられている方は、地域医療連携室を通して当科へご予約ください。

手術担当医師(乳がん)



あかぎ けんぞう
赤木 謙三

乳腺外科主任部長 兼
外科部長



とよだ やすひろ
豊田 泰弘

乳腺外科部長

まえだ だいすけ 前田 大介	形成外科医長	おおくぼ りょうへい 大久保 遼平	形成外科医員
-------------------	--------	----------------------	--------

9. 肺がん

担当診療科：呼吸器外科



診療科のご案内はこちら

当院の肺がん手術の特徴

- 肺がん・転移性肺腫瘍（大腸がん、乳がん、泌尿器がんなど）・縦隔腫瘍などの手術を行っています。
- 傷が小さい胸腔鏡手術、肺の切除量を少なくした縮小手術にも取り組んでいます。
- 手術適応でなかった進行がんでも手術前に薬物療法を行うことで手術適応になる症例もあり、呼吸器内科とも毎週症例検討を行い治療方針を決定しています。
- 併存疾患（持病）のある患者さんにも、各分野の専門家と連携し、手術を行っています。

当院の肺がん手術の実績（2025年度）

- 原発性肺がん 33 例（うち胸腔鏡 29 例）、転移性肺腫瘍 11 例（全例が胸腔鏡）

地域みなさんへのメッセージ —肺がん—

- 健康診断や他の病気の精査中にたまたま肺腫瘍が見つかることは珍しくありません。肺がんではなく感染症であったり、肺がんでも治療を急がない状態のこともあります。肺の腫瘍は自覚症状が少ないため定期的な検査が必要となります。
- 呼吸器外科はすぐに手術が必要な患者さんだけが受診する科ではありません。健診で異常を指摘されたり、以前から指摘されている陰影が大きくなってきた場合などは一度受診してください。

手術担当医師（肺がん）



呼吸器外科部長 兼
外科部長

くすもと ひでのり
楠本 英則

10. 腎がん

担当診療科：泌尿器科



診療科のご案内はこちら

当院の腎がん手術の特徴

- 基本的に小径腎がん（4cm 以下）に対しては、がんだけを取り除く腎部分切除術を、比較的大きな腎がんには、腎臓ごと摘出する根治的腎摘除術をロボット支援下または腹腔鏡下（主にロボット支援下）に行っています。

当院の腎がん手術の実績（2025年度）

- ロボット支援腎部分切除術：17 例
- ロボット支援根治的腎摘除術：15 例
- 腹腔鏡下根治的腎摘除術：7 例

地域のみなさんへのメッセージ ー腎がんー

- 腎がんに対して低侵襲で安全な手術を短期間の入院で行えています。各種薬物療法に関しても基本的に外来診療で行っています。

11. 腎盂がん・尿管がん

担当診療科：泌尿器科



診療科のご案内はこちら

当院の腎盂がん・尿管がん手術の特徴

- 腎盂がん・尿管がんに対しては、腎臓と尿管をまとめて取り除く腎尿管全摘除術をロボット支援下または腹腔鏡下（主にロボット支援下）に行っています。必要に応じてリンパ節の切除も行っています。

当院の腎盂がん・尿管がん手術の実績（2025年度）

- ロボット支援腎尿管全摘除術：15 例
- 腹腔鏡下腎尿管全摘除術：4 例

地域のみなさんへのメッセージ ー腎盂がん・尿管がんー

- 腎盂がん・尿管がんに対して低侵襲で安全な手術を短期間の入院で行えています。各種薬物療法に関しても基本的に外来診療で行っています。

12. 膀胱がん・尿道がん

担当診療科：泌尿器科



診療科のご案内はこちら

当院の膀胱がん・尿道がん手術の特徴

- 膀胱がん・尿道がんに関しては侵襲のすくない経尿道的手術による的確な組織採取と正確な病期診断が最も重要です。当院においては経口製剤を用いた質の高い経尿道的手術を行っています。
- 根の浅い（表在）がんに対しては、経尿道的手術による根治をめざしています。
- 根の深い（筋層浸潤）がんに対しては、薬物療法を行った上で、男性の場合は膀胱・前立腺・尿道、女性の場合は膀胱・尿道・子宮・卵巣をまとめて取り除きます。ほとんどの場合、骨盤内のリンパ節も切除します。加えて、新しい尿路を作成します。そのすべての工程をロボット支援下に行っています。

当院の膀胱がん・尿道がん手術の実績（2025年度）

- 経尿道的膀胱腫瘍手術：199 例
- ロボット支援膀胱全摘術：8 例（回腸導管造設：6 例、尿管皮膚瘻造設：2 例）

地域みなさんへのメッセージ ー膀胱がん、尿道がんー

- 膀胱がん・尿道がんに対して安全な手術を行えています。特に進行膀胱がんに対するロボット支援手術は大きな手術に属しますが、全工程をロボット支援下に安全に行えています。各種薬物療法に関しても基本的に外来診療で行っています。

13. 前立腺がん

担当診療科：泌尿器科



診療科のご案内はこちら

当院の前立腺がん手術の特徴

- 全例でロボット支援下に前立腺を全摘除しています。
- 術後尿失禁を少なくするように工夫しています。
- 性機能温存を希望される場合は、前立腺生検の病理結果を踏まえてご相談に応じ、片側または両側の勃起神経温存を行っています。

当院の前立腺がん手術の実績（2025年度）

- ロボット支援前立腺全摘術：62 例

地域みなさんへのメッセージ ー前立腺がんー

- 前立腺がんに対する手術後には高頻度に尿失禁が発生します。当院では今までに前立腺がんに対して約500例のロボット支援前立腺全摘除術を行ってきました。近年においては、いろいろな工夫により確実な切除とともに、より術後合併症のすくないアップデートされた手術を行っています。各種薬物療法に関しても基本的に外来診療で行っています。最近新しく前立腺がんに対する治療として認定された放射線内用療法も導入予定です。

14. 精巣がん・男性生殖器がん

担当診療科：泌尿器科



診療科のご案内はこちら

当院の精巣がん・男性生殖器がんの手術の特徴

- 精巣がんは進行の早いがんといわれており、診断後はできるだけ速やかに摘除術を行っています。
- 鼠径部に切開をおく高位精巣摘除術を行っています。
- 病理結果に基づき追加の抗がん剤治療が必要な場合は、大阪大学泌尿器科に紹介させていただきます。

当院の精巣がん・男性生殖器がん手術の実績（2025年度）

- 高位精巣摘出術：6 例

地域みなさんへのメッセージ — 精巣がん・男性生殖器がん —

- 精巣は体表から触れやすく、自分でも大きさの変化に気づきやすい臓器です。
- 10代の若年者に多く見られますが、60歳以上の高齢者にも発症します。
- 精巣の腫大に気づいたら恥ずかしがらずに、早めに泌尿器科専門医を受診してください。

手術担当医師

（腎がん、腎盂がん・尿管がん、膀胱がん・尿道がん、前立腺がん、精巣がん・男性生殖器がん）



泌尿器科部長

さとう もとたか
佐藤 元孝

鏡視下手術
有資格者

ロボット支援
有資格者

いしづや ゆう 石津谷 祐	泌尿器科医長
うめだ しゅん 梅田 駿	泌尿器科医員
ひがき あゆこ 桧垣 朱友子	泌尿器科医員
まちや せいご 町谷 成梧	泌尿器科医員
せがわ こうへい 瀬川 晃平	泌尿器科専攻医

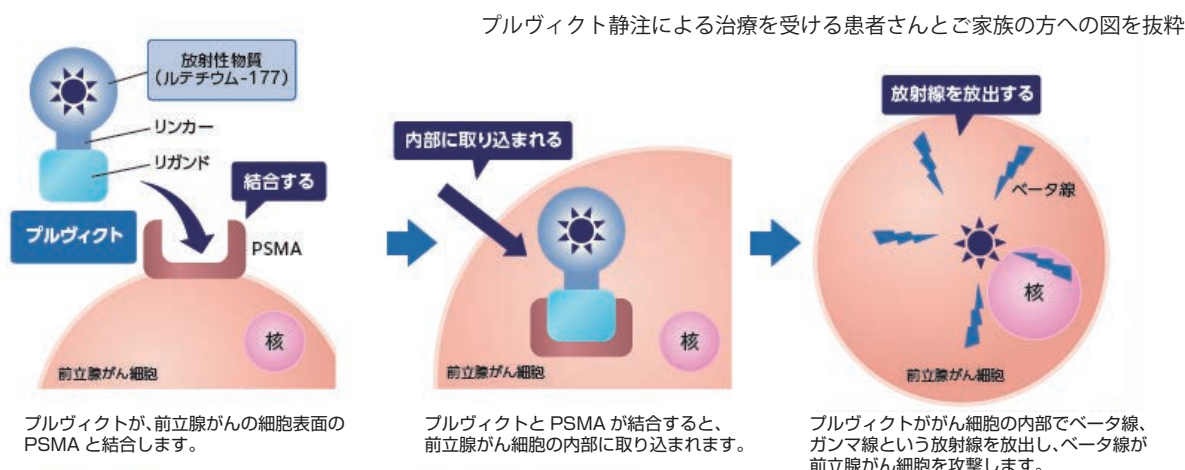


前立腺がん治療の新時代

～体の中でがんを狙う放射線内用療法

前立腺がんは、日本人男性で最も多く診断されるがんの一つです。その治療でいま、大きな注目を集めているのが、「放射線内用療法」と呼ばれる新しい治療法です。「放射線内用療法」とは、放射性物質を含む薬剤を注射し、体内でがん細胞そのものに放射線を届ける治療です。つまり、「がんを探し当てて攻撃する」治療です。

前立腺がんに対する放射線内用療法としては「プルヴィクト®」が使用されます。この薬剤は、前立腺がん細胞に多く存在する「PSMA（前立腺特異的膜抗原）」という目印に結合し、がん細胞を内側から攻撃します。ホルモン療法や抗がん剤治療などを受けた後に病勢が進行した去勢抵抗性前立腺がんの患者さんが適応になります。



治療後しばらくは体内から微量の放射線が放出されます。そのため患者さんや周囲の方々の安全を確保する目的で、入院中は専用病室（特別措置病室）で過ごします（通常2泊3日）。当院では専門スタッフの十分な管理体制のもとで治療を行います。

放射線内用療法は、泌尿器科だけで完結する治療ではありません。放射線部門、看護部など多くの医療スタッフが連携し、安全管理を徹底しながら行う高度なチーム医療です。当院では、秋ころからの導入にむけて準備を進めています。

前立腺がんの治療は今、大きく進歩しています。当院は今後も地域の医療機関の先生方と連携しながら、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供できるよう努めてまいります。



泌尿器科部長 佐藤 元孝

15. 皮膚がん

担当診療科：皮膚科



診療科のご案内はこちら

当院の皮膚がん手術の特徴

- 悪性黒色腫、有棘細胞がん、基底細胞がん、乳房外パジェット病など皮膚原発の皮膚がん全般及び比較的稀な血管肉腫、メルケル細胞がん、軟部肉腫などの治療を行っています。
- 治療に関しては再建術を含む外科的治療、抗がん剤、免疫チェックポイント阻害剤、分子標的剤などの薬物療法、放射線療法を含めた集学的な治療を行っています。
- 皮膚がんの好発部位である顔面に関しては、完全切除後に整容面を考慮した再建を心がけています。

当院の皮膚がん手術の実績（2025年度）

- 皮膚がん（軟部肉腫含む）手術件数 103 件
- リンパ節郭清 1 例、センチネルリンパ節生検 4 例

地域のみなさんへのメッセージ —皮膚がん—

- 疑わしい病変や気になる病変があればご紹介いただければ幸いです。

手術担当医師（皮膚がん）



皮膚科部長

よこみ あきのり
横見 明典

ごとう のりこ
後藤 範子

皮膚科医員

16. 子宮頸がん

担当診療科：産婦人科



診療科のご案内はこちら

当院の子宮頸がん手術の特徴

- 若年の患者様には、妊娠への影響を最小限に抑えるため、切除範囲や深さ・施行時期を慎重に検討し、妊孕性に配慮した円錐切除術を実施しています。
- 初期浸潤がんが疑われる場合には、まず円錐切除で正確な病期診断を行い、適切な術式を選択しています。
- 手術による根治が期待される症例は、必要に応じて阪大病院をご紹介します、スムーズな診療連携のもと最善の治療を提供しています。

当院の子宮頸がん手術の実績（2025年度）

- 子宮頸部円錐切除術 48 件（CIN を含む。うち子宮頸がんに対するもの 4 件）
- 子宮頸がん手術 1 件

17. 子宮体がん

担当診療科：産婦人科



診療科のご案内はこちら

当院の子宮体がん手術の特徴

- 当院では、子宮内膜異型増殖症や初期の子宮体がんに対し、低侵襲で回復の早い腹腔鏡下手術を積極的に導入し、合併症の軽減と QOL 向上に取り組んでいます。
- 妊孕性の温存を希望される若年の患者様には、慎重な評価のもと高用量黄体ホルモン療法を実施し、希望がなくなった時点で適切な手術に移行しています。
- また、高齢の患者様に対しても進行度や全身状態を考慮し、性器出血のコントロールを目的とした子宮全摘術を実施することで、QOL 改善を図っています。

当院の子宮体がん手術の実績（2025年度）

- 子宮体がん手術 18 件（うち腹腔鏡手術 2 件）

18. 卵巣がん

担当診療科：産婦人科



診療科のご案内はこちら

当院の卵巣がん手術の特徴

- 卵巣がんが術前から強く疑われる症例では、術中迅速病理を行い、悪性と診断された場合には系統的リンパ節郭清を含む卵巣がん手術や腫瘍減量術（PDS）を実施しています。
- 進行例でPDSが困難な場合は、審査腹腔鏡での組織診断後に術前化学療法（NAC）を行い、腫瘍減量術（IDS）へとつなげる治療方針を採用しています。
- PDS・IDSでは、消化器外科・泌尿器科と連携し、多臓器合併切除にも対応することで、腫瘍の徹底切除と治療効果の最大化をめざしています。

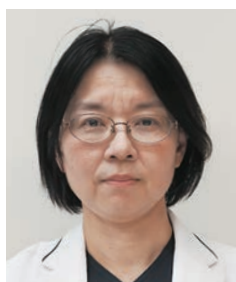
当院の卵巣がん手術の実績（2025年度）

- 卵巣がん手術 20 件

地域みなさんへのメッセージ ー子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんー

- 婦人科がんは、妊娠・出産・結婚・高齢化など、女性の人生そのものに深く関わる疾患です。当院では、若年患者様には妊孕性を考慮した子宮頸部円錐切除やホルモン療法、高齢患者様には合併症管理を含めた安全な周術期体制を整え、幅広い世代に対応しています。
- 地域の先生方と連携を深めながら、患者様一人ひとりのライフステージに寄り添い、科学的根拠に基づいた温かく確かな婦人科がん診療を提供してまいります。ご紹介・ご相談など、どうぞお気軽にご連絡ください。

手術担当医師（子宮頸部がん、子宮体部がん、卵巣がん（卵管がん））



産婦人科主任部長 兼
地域周産期母子医療センター長

つじえ ともこ
辻江 智子

鏡視下手術
有資格者



産婦人科部長 兼
地域周産期母子医療センター
副センター長

よしだ すすむ
吉田 晋

わきもと あきのり 脇本 昭憲 鏡視下手術 有資格者	嘱託	いう ゆう 伊東 優	産婦人科医長
		いしだ きょうそう 石田 享相	産婦人科医長
たかはし りょうこ 高橋 良子	産婦人科医長	かとう まゆこ 加藤 真由子	産婦人科医員
たなか ひろこ 田中 博子	産婦人科医長		

19. 甲状腺がん

担当診療科：耳鼻いんこう科



診療科のご案内はこちら

当院の甲状腺がん手術の特徴

- 甲状腺がんは、甲状腺内にとどまる早期がんの手術を行っています。進行がんで長時間の手術が必要な場合や、術後に放射性ヨード治療が必要な症例は、阪大病院に紹介しています。

当院の甲状腺がん手術の実績（2025年度）

- 甲状腺悪性腫瘍摘出術：2 件
- 頸部郭清術：1 件

20. 頭頸部がん

担当診療科：耳鼻いんこう科



診療科のご案内はこちら

当院の頭頸部がん手術の特徴

- 早期の喉頭がんを治療しています。
- 再発時には救済手術も行っています。
- それ以外の頭頸部がん（舌がん、咽頭がん、唾液腺がん、Stage II 以上の喉頭がん等）は、阪大病院に紹介しています。

地域みなさんへのメッセージ —甲状腺がん、頭頸部がん—

- 甲状腺に腫瘍が疑われた場合は、適切に診断し、早期がんであれば手術を行います。
- 進行がんであれば、治療可能な施設にご紹介いたします。

手術担当医師（甲状腺がん、頭頸部がん）



耳鼻いんこう科部長

みたに けんじ
三谷 健二

えさ なおや
江左 尚哉

耳鼻いんこう科医員

21. 脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）



診療科のご案内はこちら

担当診療科：脳神経外科

当院の脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）手術の特徴

- 手術用のナビゲータ、手術中の神経機能モニタリング装置などを使用して副作用の軽減と、最大限の摘出をめざしています。
- 悪性の脳腫瘍では、術後速やかに化学療法や放射線治療を行う必要があります。当院は放射線治療装置があり、術前から計画をたてることで速やかな後療法へとつなげています。

当院の脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）手術の実績（2025年度）

- 脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）手術 30 件

地域みなさんへのメッセージ —脳腫瘍—

- 悪性脳腫瘍への標準治療のほとんどを行う事ができます。
- 脳腫瘍は病状の進行により日常生活への支障が生じやすい疾患です。生活圏の近くでしっかりした治療を受けられることも選択肢として重要と考えています。

手術担当医師（脳・中枢神経のがん（脳腫瘍））



にしお まさみ
西尾 雅実

鏡視下手術
有資格者

副院長 兼
脳神経外科主任部長 兼
脳卒中センター長



もり こうすけ
森 康輔

鏡視下手術
有資格者

脳神経外科部長

ふくだ たつまる 福田 竜丸 鏡視下手術 有資格者	脳神経外科医員
みうら しんべい 三浦 慎平	脳神経外科医員
うつぎ れいな 宇津木 玲奈	脳神経外科医員

22. 口腔がん

担当診療科：歯科・口腔外科



診療科のご案内はこちら

当院の口腔がん手術の特徴

- 口腔亜領域（舌、上顎/下顎歯肉、頬粘膜、口底、硬口蓋）の解剖学的特性（歯、顎骨、唾液腺、筋肉、血管、神経など）を考慮して手術を行っています。
- 初期のがんについては、切除手術後の早期の経口摂取をめざします。口腔がんの約1/3～1/4は頸部リンパ節に転移をきたし、リンパ節を含めた切除（頸部郭清）を要します。
- 切除可能な局所進行がんについては、薬物療法を併用しつつ、切除による組織欠損に応じて当院形成外科と合同で再建手術を検討します（あるいは大阪大学へ紹介します）。なお、薬物療法の著効例では、再建手術を回避した切除単独手術に転換できることもあります。

当院の口腔がん手術の実績（2025年度）

- 口腔がん 17例

内訳：舌がん 8例、下顎歯肉がん 2例、上顎歯肉がん 1例、頬粘膜がん 3例、口底がん 1例、頸部後発転移 2例

地域のみなさんへのメッセージ —口腔がん—

- 口腔粘膜に発生する病変は口内炎をはじめ、多様です。発生率は低いものの、がんもそのうちの1つです。
- 治りの悪い口内炎や増大傾向の腫瘍（できもの）については、かかりつけ医院あるいは歯科医院からの紹介により、当科へご相談下さい。

手術担当医師（口腔がん）



いまい ともあき
今井 智章

歯科・口腔外科部長 兼
中央診療局主幹

ますい あつし 栴井 敦史	歯科・口腔外科医長
すすき まお 鈴木 真央	歯科・口腔外科医員



ロボット支援手術のメリット

市立豊中病院のロボット支援手術は、ダヴィンチ Xi を用いて行っています。手術支援ロボットは、医師の手術を支援する機器です。ロボットが自動で手術を行うものではなく、医師が操作席で 3D 画像を見ながら遠隔操作し、その動きがロボットアームに伝わる仕組みです。

小さな切開部から手術を行うため、傷が小さく、出血や術後の痛みが少なくなることが期待されることは、従来の鏡視下手術と同様です。

従来の鏡視下手術と異なる点としては、体内の細かな部位を、拡大された 3D 画像で確認しながら手術を進められることに加え、ロボットアームの関節機能や手ぶれ防止機能も実装されていることが挙げられます。その結果、従来の鏡視下手術よりも繊細で精緻な手術操作が可能となり、より安全で質の高い手術を行うことができます。

ただし、すべての患者さんに適しているわけではありません。がんの種類や進行具合、全身状態などを踏まえ、医師が適切な手術方法を判断します。

— ロボット支援手術(ダヴィンチ)のイメージ —

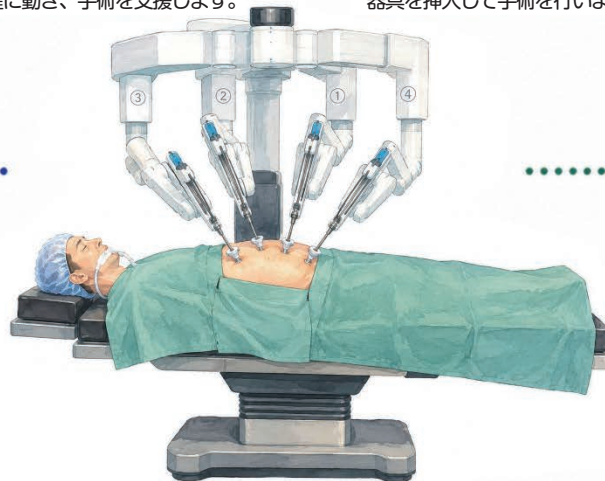
① 医師(術者)が コンソールを操作

医師はコンソールに座り、3D 画像を見ながらロボットを操作します。



② ロボットアームが手術を支援

医師の操作に合わせて、ロボットアームが安定して正確に動き、手術を支援します。



③ 患者さん(手術部位)

小さな切開部（数か所）からロボットの器具を挿入して手術を行います。



3D 画像で見やすい

立体的で拡大された画像により、細部までしっかり確認できます。



細かな操作がしやすい

手ぶれを補正し、可動域が広いロボットアームで、繊細な操作が可能です。



傷が小さい

小さな切開部で手術を行うため、体への負担が少なく済みます。



術後の回復が早い

痛みが少なく、早期の回復や退院が期待できます。

(※ 手術の方法や適応は、病気の種類や進行具合によって異なります。詳しくは担当医にご相談ください。)

本図は AI を用いて作成したイメージ図をもとに、医師監修の上で編集した概念図です。実際の術式・術野とは異なる場合があります。



がんの手術に関連した 当院の取り組み



手術前の準備を多職種でサポートします ～患者サポートセンター～



患者サポートセンター
のご案内はこちら

- ・入院が決定した患者さん・ご家族と面談し、入院に必要な情報の聞き取りやアレルギーの確認、入院生活や持参物品について説明します。
- ・入院前から退院後の生活を見据えたサポートをするために、看護師や薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が関わり、必要な部門と連携します。
- ・患者相談窓口では、さまざまな相談を受け付け、各担当者につながります。



かかりつけ歯科と連携し合併症を予防します ～周術期口腔機能管理～



周術期口腔機能管理
のご案内はこちら

- ・がん治療担当医と歯科医師が連携して、がん患者さんの口腔機能管理を実施することにより、「手術」を行う場合のお口のトラブルや誤嚥性肺炎・感染症の予防と、「薬物療法・放射線治療」を行う場合の口腔粘膜炎や口腔内感染等に対するがん治療の支持療法と位置づけ治療の向上をめざすものです。
- ・2014年4月より、地域の歯科医療機関さまとの連携による「周術期口腔機能管理」を実施させていただいています。（入院中の患者さんに対しては、当院歯科口腔外科による厳密な口腔機能管理を行っております。）
- ・2016年11月より、薬物療法・放射線療法患者への口腔機能管理を地域の歯科医療機関さまとの連携で開始いたしました。
- ・地域歯科医療連携に関するお問い合わせ、また「周術期口腔機能管理」の歯科連携にご協力いただける場合は、地域医療連携室（地域連携コーナー）に電話（06-6843-0101）でご連絡をお願いいたします。

安全かつ快適な周術期（手術前から手術後まで）のために ～麻酔科・術後疼痛管理チーム～



麻酔科のご案内はこちら

当院では年間3,525件（R7年度）の全身麻酔を行っています。

がんの手術は全身麻酔と区域麻酔（硬膜外麻酔・エコーガイド下神経ブロックなど）を単独または併用して行います。

- ・術前診察では、手術前の患者さんのコンディションを整え、患者さんの全身状態や病歴・手術内容などを考慮し、適切な麻酔方法を提示し説明します。
- ・手術中は、担当麻酔科医が患者さんの状態と手術の進行状況をみながら、麻酔の深さや呼吸や血圧などを適切に調節して、最適の麻酔状態を保ちます。
- ・術後は患者さんごとに鎮痛薬の調整および吐き気などの対策を行い、安全かつ快適な術後を過ごせるように努め、早期回復を目指します。
- ・重篤な合併症のある患者さん、大きな手術後で経過観察が必要となる患者さんは、術後に集中治療室（ICU）に入室します。麻酔科と診療科医師が協同して、よりきめ細やかな術後管理をします。

●術後疼痛管理チーム

手術を受ける患者さんは術後の痛みについて不安や心配を抱えている方が多いと思います。術後疼痛管理チームは、手術後の痛みや吐き気などの苦痛に対して専門的に関わるチームです。

痛みの程度を0～10の数字で患者さん自身に表現してもらいます。それを元に薬の調整を行います。安全で痛みや吐き気の少ない手術をめざしています。

術後の痛みや吐き気に不安がある方は遠慮なく術後疼痛管理チームにご相談下さい。

術後の体力低下を予防します ～栄養療法とがんリハビリテーション～



栄養サポートチーム（NST）
のご案内はこちら



リハビリテーション部
のご案内はこちら

・栄養サポートチーム（NST）

NSTは医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）、臨床検査技師などの様々な医療専門スタッフが力を合わせ、患者さまの栄養についてサポートさせていただきます。



・がんのリハビリテーション治療

がん治療の一環として、リハビリテーション科医とリハビリテーション専門職により提供される医学的治療を行っています。

他疾患のリハビリテーションと同様に、患者さまの状況や希望に応じて行う訓練であり、QOL（生活の質）を向上させることを目的としています。

当院では、患者さまが「前向きに治療に臨める」「退院後により良い生活が送れる」などを目標に、リハビリテーション職種（PT、OT、ST）だけでなく、看護師や医療ソーシャルワーカーなどのチームでリハビリテーションを行っています。

様々な術後感染症を予防します ～感染対策室～



感染対策室
のご案内はこちら

・手指衛生の取り組み・・・感染対策の基本は、手指衛生（手洗い）です。

それは、手指が菌やウイルスを最も感染伝播させているからです。そのため、当院では、定期的にも実際の手指衛生の実施状況をモニタリングして改善に繋げています。

・手術部位感染予防の取り組み・・・手術部位感染の発生状況をモニタリングし、発生状況によっては、科学的根拠に基づいた感染対策について手術部スタッフと検討し、改善につなげています。

・環境ラウンド・・・感染対策チーム（ICT：infection control team）と共に、感染に関する安全な病棟環境や療養環境を維持する目的で、毎週病棟の巡視およびチェックを行っています。

・抗菌薬適正使用ラウンド・・・抗菌薬適正使用支援チーム（AST：Antimicrobial Stewardship Team）と共に、感染症治療において、抗菌薬の使用を適正に行う目的で、毎週担当医師に対して提案や助言を行っています。

・院内研修・・・病院での感染対策の充実を図るために、全職員に対して年2回大規模な講習会を開催しています。また、定期的に感染対策や抗菌薬に関する研修を開催しています。

がんに伴うあらゆる苦痛をやわらげます ～緩和ケアセンター（緩和ケアチーム）～



緩和ケアセンター
のご案内はこちら



緩和ケアチーム
のご案内はこちら

- ・私たち医療者は、これから病気と向き合っていく患者さんご家族の力になりたいと考えています。
- ・「緩和ケア」と聞くと、がんの終末期医療をイメージされていませんか。
緩和ケアとは、終末期だけでなくがん患者さんの身体的な苦痛や精神的な不安を少しでも和らげるためのサポートを行い、「がん」と診断されたその日から、並行して行われる医療です。



- ・患者さんの希望や意向を尊重した医療やケアを提供できるように、多職種からなる緩和ケアチームを結成し、それぞれの専門性を発揮しながら緩和医療を行っています。

ご希望の方は診療科主治医にご相談ください

地域の医療機関と連携し、治療前から治療後まで支えます ～地域医療連携室～



地域医療連携室
のご案内はこちら

- ・地域医療連携室では、地域の医療機関からご紹介いただいたがん患者さんを、できるだけ速やかに専門診療につなげることができるよう、紹介予約の円滑化に取り組んでいます。地域医療機関からの紹介予約方法については、地域医療機関向けの「診療のご案内」または病院ホームページをご確認ください。
- ・がん手術や化学療法、放射線治療など専門的な治療が一段落した後は、がん連携パス（胃がん、大腸がん、乳がん、肝がん、前立腺がん、膀胱がん）などを活用して、地域のかかりつけ医と協力し、患者さんの視点にあった安心で質の高い医療を提供する体制を構築しています。日々の体調管理や相談は身近なかかりつけ医で、専門的な診療や再評価が必要なときは当院で対応するなど、当院とかかりつけ医が役割を分担しながら、患者さんが住み慣れた地域で安心して療養を続けられるよう支援します。
- ・地域の先生方におかれましては、診断や治療方針、手術適応に関するご相談、当院で治療を受けた患者さんの地域での継続診療に関する調整などについて、地域医療連携室へご相談ください。

がん薬物療法で「がんが治る」ことをめざします ～がん薬物療法センター～



がん薬物療法センター
のご案内はこちら

がんの手術を行っても、「がん」は一定の確率で再発し、再発した場合には、「がんを治す」ことは困難です。そこで、手術前後にがん薬物療法を行うことで、再発の確率を低下させ、「がんを治す」ことをめざします。

また、「がん」と診断された時点で、すでに「がん」が周囲臓器に浸潤したり、遠隔臓器に転移していることから手術が適応にならないことがあります。このような場合、がん薬物療法により「がん」が縮小し、手術が可能になることがあります。

がん薬物療法には副作用がありますが、支持療法（薬剤や栄養管理など）や薬剤量を調整することで、副作用の軽減に最善を尽くし、患者さまの社会生活や生活の質が維持できるよう診療しています。当院では、がん薬物療法の資格を有する医師、薬剤師、看護師が中心となり、各専門診療科のがん治療医と共に、院内のがん薬物療法が安全に実施されるよう整備しています。



放射線治療科
のご案内はこちら

放射線治療という選択肢 ～放射線治療科～

放射線治療とは

- ・放射線治療は、身体の外から強力な放射線を当てることでがん細胞を破壊する治療法です。手術、抗がん剤とともに、がん治療の3本柱の1つに数えられています。
- ・皆様もレントゲン写真やCT検査などで放射線を浴びた経験があると思いますが、放射線は目に見えず身体に当たっても何も感じません。放射線治療も同様で、治療台の上でじっとしている必要はありますが、治療中に痛みや熱さを感じることはありません。

根治治療と緩和治療

- ・放射線治療では、がんの種類や状況に応じて治療の強度を調整しています。
- ・根治治療では、毎日少しずつ長期間かけて放射線を当て続けることで、がんを完全に治すことを目的とします。放射線の総量が多くなるため副作用もありますが、手術が難しい症例でも対応できることが特徴です。
- ・緩和治療では、少量の放射線を短期間で当てることで、がんによる痛みや出血などのつらい症状を和らげることを目的とします。根治治療が難しい状況までがんが進行した場合でも、患者様が退院して日常生活に戻れるようサポートするのが緩和治療の役割です。

当院の放射線治療の特徴

- ・当院では一般的なりニアックという機械を用いた放射線治療をおこなっています。
- ・現在のところIMRTなどの高精度照射は実施していませんが、阪大病院などの施設と密に連携しており、IMRT、定位照射、重粒子線治療など必要に応じてご紹介いたします。

当院の放射線治療の実績

- ・昨年度の患者数: 373例

原発部位別: 乳がん 183例, 消化器がん60例, 呼吸器がん 49例 など



内視鏡部のご案内はこちら

身体への負担を少なく ～内視鏡部～

- ・当院内視鏡部では、消化器内視鏡検査および気管支鏡検査を行っています。
がん診療においては、早期発見・精密診断から内視鏡治療、外科手術や薬物療法への橋渡しまで、各診療科と密に連携しながら診療にあたっています。
- ・消化器内視鏡部門は日本消化器内視鏡学会指導施設に認定され、日本消化器内視鏡学会指導医3名、専門医（指導医含む）6名をはじめ、消化器内視鏡スタッフ17名を擁し、専門性の高い内視鏡検査・治療を行っています。
- ・気管支鏡部門は、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医2名、専門医3名をはじめ、気管支鏡スタッフ7名で検査を行っています。肺がんをはじめとする呼吸器疾患についても、呼吸器内科・呼吸器外科と連携し、診断から治療方針の決定まで円滑につなげています。
- ・当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、がんの診断はもとより、早期がん（食道・胃・大腸）に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や、進行がんに伴う消化管狭窄に対するステント留置などを積極的に行っています。内視鏡治療の適応を的確に判断し、外科的治療が望ましい症例では消化器外科と迅速に連携することで、患者さんに最適な治療へつなげています。
- ・消化器内視鏡検査では、AIメディカルサービス社の内視鏡AIを全検査室に導入し、上部・下部内視鏡検査の双方で活用しています。内視鏡専門医の診断力にAI支援を組み合わせることで、病変の拾い上げ精度の向上をめざし、より質の高い検査体制を整えています。
- ・内視鏡検査の苦痛軽減のため、通常の内視鏡検査でもご希望の患者さまには鎮静剤を使用して検査を行っています。基礎疾患や年齢等により全ての患者さまで使用できるわけではありませんが、ご希望の方は検査予約時に担当医にご相談ください。
- ・地域の先生方へ：消化器がんが疑われる症例、健診異常、貧血、便潜血陽性、嚥下困難、消化管狭窄が疑われる症例などがございましたら、ぜひ当院へご紹介ください。内視鏡部が精密診断を担い、内視鏡治療・外科手術・薬物療法を含めた最適な治療方針へ、院内各科と連携して迅速につなげてまいります。



形成外科のご案内はこちら

がん切除後の再建と機能改善を支えます ～形成外科～

① がん切除後の再建

乳がんの手術後、失われた乳房を再建する手術を乳腺外科と連携して行っています。

- ・乳がん切除と同時に行う「1次再建」（即時再建）と、術後に時期をあらためて行う「2次再建」のいずれにも対応しています。
- ・再建方法は患者さんのご希望や体型・治療経過に応じて選択します。
 - ① 人工物（ティッシュエキスパンダー→シリコンインプラント）による再建
 - ② 自家組織移植（広背筋皮弁・DIEP皮弁など）による再建
 - ③ 乳輪乳頭再建（組織移植や局所皮弁）

・他院で乳がん手術を受けられた方の2次再建や、人工物の破損が疑われる場合もお引き受けします。頭頸部・口腔がんでは、がん切除後の組織欠損に応じて組織補填の手術を担当します。皮膚移植術から顕微鏡を用いた遊離皮弁術まで幅広く対応しています。

② がん術後のキズ（ケロイド・肥厚性瘢痕）の治療

がん手術の傷跡が赤く盛り上がり、かゆみや痛みを伴うケロイド・肥厚性瘢痕に対して専門的な治療を行っています。

- ・保存的治療（圧迫療法・ステロイド局所注射・ステロイド貼付剤）から手術（瘢痕切除・局所皮弁）まで、重症度に応じて段階的に対応します。
- ・術後補助療法として、放射線科と連携した放射線照射も選択肢の一つです。
- ・体質的にケロイドになりやすい患者さんや、目立つ部位（胸部・肩など）の術後創について特に丁寧に対応します。

③ がん術後のリンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術（LVA）

乳がん・婦人科がん・泌尿器がんなどの手術後に生じるリンパ浮腫に対し、顕微鏡下のリンパ管静脈吻合術（LVA）を行っています。

- ・流れが悪くなったリンパ管と近傍の静脈を吻合してリンパの流れを再建し、浮腫の軽減・進行抑制を目指す低侵襲な手術です（局所麻酔・日帰り～短期入院で可能）。
- ・術前・術後には弾性着衣やリンパドレナージによる複合的理学療法と組み合わせ（リンパ浮腫外来と連携）、長期的な管理を行います。

その他 がんに関するよろず相談 ～がん相談支援センター～



ひとりで悩んでいませんか。

相談無料



がん相談支援センターのご案内

がん相談支援センターとは

がん患者さんとそのご家族の疑問や不安・悩みをお伺いし、がん専門の相談員（医療ソーシャルワーカーや看護師）が、問題解決のお手伝いをします。

✳️ がんかもしれない・・・

○がんの予防や検診、どんな治療や検査があるのか知りたい

✳️ がんと言われたが・・・

- 一般的な治療についての情報を知りたい
- 医師から病気や治療の説明を聞いたが、理解できなかった
- 医療費や生活費が心配
- 仕事と治療の両立が不安
- 将来子どもが欲しくなるかも、治療による影響があるの？

✳️ セカンドオピニオンを受けたいが・・・

○セカンドオピニオンって何？どこで受けることができるの？

✳️ がん治療を受けているが・・・

- 気持ちが落ち込む、イライラする・・・
- 患者・家族とどのように接すればいいの？
- 緩和ケアって何？どこで受けることができるの？
- ホスピス、在宅サービスについて知りたい

✳️ 他にも

- がんゲノム医療って何？
- AYA（思春期・若年成人）世代の将来への不安（就労、結婚、子育てなど）

お気軽にご相談ください



がん患者さん・ご家族の交流の場として
「とよなががんサロン」
「Toyonaka AYAトーク」

毎月開催

がん患者さん対象の就職相談会として
「ハローワーク池田出張相談会」



受付時間

月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）
午前9時～午後4時30分

相談方法 ※予約優先

面談・電話・FAX・メール・オンライン（Zoom）
相談時間 30分程度

受付・予約

電話の場合：「がん相談支援センター」までお電話ください。
☎06-6843-0101（代表）
来室の場合：患者サポートセンター「がん相談受付」にお越しください。
オンライン相談ご希望の方はホームページをご覧ください。

ご利用方法



※受診先が当院・他院どちらの場合も相談できます。 ※通話料および通信費は利用される方のご負担になります。
※匿名による相談もできます。また、相談で知れた情報を相談者の同意なく、第三者（主治医等を含む）に伝えることはありません。

市立豊中病院
がん相談支援センター

〒560-8565 豊中市柴原町4-14-1
TEL:06-6843-0101(代表)
FAX:06-6858-3513
Email: gan-shien@chp.toyonaka.osaka.jp

◎ウェブサイトはこちらから

市立豊中病院 がん相談支援センター

検索



市立豊中病院のがんの手術 2026

発行 令和8年(2026年)7月

編集 市立豊中病院 がん診療部(がん相談支援センター)

〒560-8565 豊中市柴原町4-14-1



市立豊中病院

Toyonaka Municipal Hospital

〒560-8565 大阪府豊中市柴原町4丁目14番1号

TEL (06)6843-0101 FAX (06)6858-3602

FAX (06)6858-3555【予約】

(URL)<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/hp/>